

公表 保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表日 2026年 1月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 広島井口教室

保護者等数(児童数) 29名 回収数 24件(割合82%)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	3		2	もう少し広くても良さそう(運動する時など)	教室では十分な広さが確保できないため、運動する時には公園に行くなど臨機応変に対応してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16	2		6	必要時は手あつくつけていただいています。	個別での対応が求められる場合には、職員を多めに配置するようにしてまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	1		4	見ていないのでわかりません。	教室での様子など、保護者様に伝わるようにお話したり、Instagramに載せたりしてまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21			3		心地よく過ごせるように清掃にも力を入れてまいります。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1	1	1	かみぐせや手が出る時にも、先生達に相談し、対応してもらっています。	児童の特性に関して、教室やご家庭での様子を考慮して対応してまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22			2		5領域に合わせた支援プログラムを考えていきたいと思っています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	1	1		計画もたててもらっています。	保護者様へのお聞き取りも踏まえつつ、個別支援計画を作成してまいります。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19			5		分かりやすく計画を作成してまいります。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1		2		計画に沿って、支援をしてまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	1		1		飽きがないように、子ども達にも考えてもらいながら活動プログラムを作成してまいります。
保護者 への 説明等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4			5	15	ムリに交流させなくていいと思う。交流する機会を作ることが難しいため、地域のお祭りなどに参加して交流を図ろうと思います。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21			2	1	契約時にご説明してまいります。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20	1	2	1		保護者様にも納得いただけるように支援内容を相談しながら考えてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	2	9	10		家族への支援や情報提供が不十分のため、今後情報提供等してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	21	2	1			保護者様とお子様の状況について、共通認識を持っておくようにします。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	5	4			定期的に面談の声掛けをしてまいります。ご相談などありましたら、お気軽におっしゃってください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	1		1		職員みんなでお子さまや保護者様のお悩みに向き合ってまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	12	9	参観とかはないのでしょうか。なくても良いですが。	茶話会などを企画してまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	3		1		相談しやすい環境や意識作りを心掛け、少しでも保護者様の悩みに寄りそえるようにしてまいります。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	1				働いている保護者様にはお電話だけでなく、LINEも適宜活用しております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	23			1		HPやInstagram、LINEを利用し、活動内容や自己評価の結果を発信しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	1	1	1	子どもが持ちかえった紙に、利用者のフルネームが書いてありました。(裏紙)	今後、個人情報の記入のあるものはすぐにシュレッダーし、外部に持ち出すことのないように徹底していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12		2	10		マニュアルの内容について、保護者様に周知してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11		1	12		避難訓練の実施に関して、保護者様に分かりやすいように周知していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	1	1	5		安全に気をつけてお子さまの支援をできるようにしてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	1		4		怪我等などした場合には、電話やLINEなどで速やかに保護者様に報告させていただきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	24				いつも、送迎車がくるのをたのしみにしています。	怪我なく安心して過ごせるように見守ってまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	23			1	月数回の利用でも楽しく通っていると思います。	通所を楽しみにしてもらえるように工夫して支援してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23		1		これまで通りお願い致します。満足しています。	保護者様にご満足いただけるように努めてまいります。

公表日

2026年

1月

20日

事業所名

こばんはうすくら 広島井口教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1		人数によっては教室が手狭と感じることもあるため、活動場所や時間を区切って使用しています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		特性を鑑みて、職員を多めに配置しています。	職員の総数から、人数的配慮が難しい場合もあります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	絵カードなどを使い、時間割りやおもちゃを分かりやすく明示しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		エアコンなど清潔に過ごせるように掃除を頻繁に行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	2	個室がないため、落ち着く場所としてトイレや、マットで区切られた空間を使用しています。	死角となるため、安全にも注意を払っています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	4	ミーティングや業務終了後の振り返りなどを利用しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1		なかなか改善につなげられていない部分もあります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		出来事を利用し、職員の意見を把握する場所としています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	4	定期的にSVIに訪問してもらい、義務化事項や支援計画など相談に乗ってもらっています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	研修の案内をファイルにまとめ、情報を共有しています。	意欲的に参加する職員と、そうでない職員がいるため、時間を作り、研修に参加できる機会を設けていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		専用の用紙や電話での聞き取りを利用し、ニーズを支援計画に反映させています。	保護者のニーズが見えにくいことがあります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		児発管を中心にして、職員に対して聞き取りを行い、子どもの理解を深めています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		児童の様子を記入する際に、支援計画を確認できるようにファイルに入れています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	4		アセスメントツールがなく、使用することが難しく、様子を観察する中で、ツールに書き込む時間的余裕がないことが多いです。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	5		家族への支援が重要になってきていると感じます。面談などで保護者の悩み事にも向き合っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10			活動プログラムがマンネリ化してきているため、新たなプログラムを考えていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	子ども達の意見も聞き、活動プログラムを変化させています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10			集団活動の中でも個別の役割を持たせるようにしていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	朝のミーティングで確認をしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	4		パートの職員の話を開けずに終わる時もあるため、空いた時間に気づいた点などを確認します。

適切な支援の提供	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	その日利用する児童の記録を前日に準備し、記入漏れのないようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	3	定期的に見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5	5		短い時間の中で、4つの基本活動を組み合わせての支援が難しい場合があると考えています。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		帰りの会などで、ゲームをする際に多数決を取り、子ども達自身で選べるようにしています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	主に児発管が職員からの情報をまとめて、参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	5		主治医との具体的な連携が難しく、間に保護者様を介してのやりとりとなってしまう。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	2	児童の下校時刻を確認しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	4		児発から上がってくる子は引継ぎ等しているが、放デイを見据えての利用者は保育園等と連携をしていない場合もあります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	5		卒業者が少なく、障害福祉サービス事業所等への移行を経験していません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	6		支援センターとのつながりが弱いと考えています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	6		地域の子ども達との関わりが持ちづらいため、地域の行事に参加し、交流を図っていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	5		研修など参加できる時に参加しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		送迎時や連絡帳などで、保護者様とお子さまの状況を報告、確認し合っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	6		情報提供を行えていないため、定期的に情報を流していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	契約時に保護者様に説明を行っています。	利用者負担や上限管理等は保護者様にとって理解しにくい部分もあると思います。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	1	面談や電話で、ご家族の意向を確認する機会を設けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		送迎等、保護者様のお時間のある時に計画書の説明をしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		ご家族のお悩みに関して、電話や面談などで支援を行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	5		父母会などを開催するノウハウがなく、いまだに開催に踏み切れていないです。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		苦情には速やかに対応し、スタッフを含めて対応を模索しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		お知らせだけでなく、InstagramなどのSNSを使用し、子ども達の活動を伝えています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			個人情報の記載された用紙の処分が不十分な所があったため、すぐに処分することを徹底していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		認識の齟齬がないように、LINEでの文章や電話口での確認を怠らないようにしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5		事業所が狭く、招くことは難しいため、地域の行事に積極的に参加していき、交流を図りたいです。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	3	面談室にマニュアル等を置き、誰でも閲覧できるようにしています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	2	社員同士での机上訓練や児童を伴った必要な訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	1	契約時のアセスメントでお聞き取りしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1		食物アレルギーのある児童に対して場所を区切るのが難しく、受け入れ体制が十分ではないです。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	2		スタッフに十分に周知できるようにしていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1	緊急受け渡しカードを配っています。	緊急受け渡しカードを使用する機会がなく、形骸化していると考えています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1		ヒヤリハット事項が起こったその日に記入することが難しく、数日経ってからの記入となる事が多いです。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	義務化した研修とともに、虐待防止研修にも取り組んでいます。	日々の支援の中で、職員の状態をモニタリングし、虐待防止に取り組んでいく必要があると考えています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1		身体拘束を行う可能性のある児童の受け入れをしていないです。